



里山に育む生きものたち

47 タラノキ (セリ目 ウコギ科)

学名 *Aralia elata* (Miq.) Seem.

文・写真 / 安 昌美

からウド(タラノキ属)の新葉に似た葉が伸びてきます。

▼タラノキと人

タラノキの新芽は古くから食用に利用されてきたようです。県内でも「たらぼう」などと呼ばれていますし、刺の少ない、または無いもの(品種でメダラとして区別することがある)は「もちたらぼう」と呼び山菜取りでは喜ばれます。先端の芽(頂芽)が採取されると、それまでは大きくなれなかった側芽が伸びて葉を広げて生きていきます。ところがこの芽まで採ってしまうことは歓迎されません。町内ではありませんが、コシアブラが切り倒されて芽を採られているのを見たことがあります。心の貧しさを感じました。最近ではタラノメの栽培も盛んで品種も育成されているようです。

▼ウコギ科の新しい分類体系での位置

ウコギ科はこれまで多くの図鑑などで採用されていた分類体系では双子葉植物の離弁花類の最後にありました。しかし、DNAなどの分子情報を利用する分子系統学の成果により、これまでの順とは異なり、キク目、マツムシノウ目、セリ目となり、セリ目ではウコギ科、トベラ科、セリ科の順になつていきます。また、これまでセリ科に含まれていたチドメグサ属はウコギ科に含まれています。

地球温暖化や暖冬などが話題になり、冬がこれまでより暖かくなつてきていることは皆さまも感じていると思います。年配の方は子どもころ、冬に田んぼに氷が張り、氷も厚かったので、下駄スケートをした思い出はありませんか。三月の日差しは春のようでも、風はまだ冷たい時があります。今月は季節を少し先に進めて町内でも身近にあるタラノキを紹介します。

▼タラノキとは

ウコギ科タラノキ属の落葉低木で、幹に刺があり、新芽(タラノメ)は山菜の王様として知られています。和名のタラノキ(穂の木)の語源ははつきりしません。茨城町でも各地にあります。国内では北海道から沖縄まであ

り、国外では朝鮮、中国東北部、アムール、ウスリー、サハリンなど東アジアに分布するとされます。生育地は丘陵地から山地の崩壊地など明るい場所、草地などにまず侵入してくる樹木の代表的な種類です。高さは二〜六mとされます。雌雄同株で、花期は夏の序の枝の上部には雌しべ・雄しべの両性花がつき、下部には雄しべだけの雄花がつくことが多いとされます。見やすい位置で咲いてくれないことが多いです。果実は秋に黒く熟します。鳥に食べられて種子が散布されるとされていますが、茨城町ではどんな鳥が食べているのでしょうか。高知県ではメジロが報告されています。芽は鱗片に保護されており、春に中

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

茨城町の人口と世帯数

※カッコ内は前月比です。
(住民基本台帳 平成28年1月末現在)

- ◆総人口33,481人 (-92)
- 男16,697人 (-71)、女16,784人 (-21)
- ◆世帯数12,658 (-60)

茨城町民憲章

- 1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
- 1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
- 1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
- 1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
- 1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています